

小児外科

1. スタッフ（2019年4月1日現在）

科 長（教 授）	小野 滋
病棟医長（助 教）	馬場 勝尚
外来医長（病院助教）	辻 由貴
医 員（助 教）	薄井 佳子
医 員	廣谷 太一
	廣畑 吉昭
シニアレジデント	2 名

2. 診療科の特徴

「子どもと家族に優しい医療」を基本理念とし、世界水準の小児医療を地域医療へ還元することモットーにしている。さらに数だけでなく、安全で質の高い小児外科医療の提供を行なっている。

・施設認定

日本小児外科学会専門医制度 認定施設
日本外科学会専門医制度 認定施設
日本周産期・新生児医学会認定 基幹施設
日本小児血液・がん専門医研修施設

・専門医

日本小児外科学会 指導医	小野 滋
日本小児外科学会 小児外科専門医	小野 滋
	馬場 勝尚
	薄井 佳子
	廣谷 太一
日本外科学会 指導医	小野 滋
	薄井 佳子
日本外科学会 外科専門医	小野 滋
	馬場 勝尚
	薄井 佳子
	辻 由貴
	廣谷 太一
	關根 沙知
	廣畑 吉昭
小児血液・がん学会認定外科医	小野 滋
日本がん治療認定医	小野 滋
Pacific Association of Pediatric Surgeons active member	小野 滋

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 外来患者数	274人
再来患者数	4038人
紹介率	84.6%

2) 入院患者数：401名

3) 手術患者数：388例

3-1) 手術症例病名別件数

主な手術症例病名	術名	件数
抜管困難	気管切開術	6
	硬性気管支鏡	4
気管狭窄症・声門下腔狭窄症	硬性気管支鏡	28
	軟性気管支鏡	2
	レーザー焼灼術	10
	バルーン拡張術	4
気管軟化症	硬性気管支鏡	4
喉頭気管食道裂	硬性気管支鏡	1
気切後状態	気管切開孔閉鎖術	3
	気管切開孔再形成術	1
横隔膜ヘルニア	横隔膜修復術	1
肺分画症	分画肺切除	1
気胸	胸腔鏡下肺部分切除	3
	胸腔ドレナージ	2
漏斗胸	ナス手術	3
	バー拔去術	6
鰓弓遺残	頸部腫瘍摘出	1
梨状窩瘻	梨状窩瘻摘出術	1
舌小帯短縮症	舌小帯切離術	4
副耳	切除術	1
耳前瘻孔	摘出術	1
甲状舌管嚢胞	シストランク手術	1
食道閉鎖症	食道食道吻合術、TEF切離術	2
	食道banding、胃瘻造設術	1
	噴門形成術	1
経口摂取困難、嚥下困難	開腹胃瘻造設術	7
	腹腔鏡補助下胃瘻造設術	1
胃食道逆流症	開腹Nissen噴門形成術、胃瘻造設術	3
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術	6
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	膜様閉鎖切除術・ダイアモンド吻合術	2
小腸閉鎖症・狭窄症	小腸吻合術、膜様部切除	4
短腸症候群	CVカテーテル入れ換え（シース法）	3
腹水、腹腔内膿瘍	腹腔ドレナージ術	3
腸回転異常症	ラッド手術	3
ヒルシュスプルング病	直腸生検	1
	腹腔鏡補助下根治術（Soave）	1

	腹腔鏡補助下根治術 (Duhamel)	1
	下部消化管内視鏡検査 (Duhamel術後)	1
	腹腔鏡下癒着剥離	1
ヒルシュスプルング病 類縁疾患	Santulli型 ストマ再 造、癒着剥離	1
	CVカテーテル入れ換え (シース法)	4
全結腸壊死、回腸スト マ造設後	回腸ストマ閉鎖術、回 腸直腸吻合術	1
メッケル憩室	メッケル憩室切除術	1
壊死性腸炎	試験開腹術、回腸スト マ造設術	1
急性虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除術	1
	開腹虫垂切除術、腹腔 ドレナージ	1
虫垂炎	待機的腹腔鏡下虫垂切 除術	14
消化管穿孔	腹腔ドレナージ	1
	ストマ造設術	3
	回腸部分切除	1
イレウス	イレウス解除術	3
	ストマ造設術	1
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡補助下大腸亜全 摘術、回腸囊肛門吻合 術、回腸ストマ造設術	1
	ストマ閉鎖術、腹腔鏡 下癒着剥離術	1
	ストマ閉鎖術、腹腔鏡 検索、CV挿入術	1
胎便性腹膜炎、小腸閉鎖症	腹腔ドレナージ	1
	人工肛門閉鎖術	1
結腸穿孔	結腸切除術	1
腸重積症	非観血的整復術（高圧 浣腸）	9
	観血的整復術（Hutchinson 手技）	2
	観血的整復術（Hutchinson 手技）、回腸部分切除	1
直腸肛門奇形	ストマ造設術	2
	ストマ閉鎖術	1
	肛門皮膚瘻切開術	1
	腹腔鏡観察	1
	肛門形成術（ASARP）	1
	肛門形成術（PSARP）	1
	下部消化管内視鏡	1
肛門外陰部瘻	ストマ造設術	1
	瘻孔切除術	1
総排泄腔遺残	ストマ造設術	1
ストマ造設状態	ストマ閉鎖術	1
肛門周囲膿瘍（骨髄異 形成症候群）	切開ドレナージ	1
肛門ポリープ	切除術	1

胆道閉鎖症	肝門部空腸吻合術、肝 生検、開腹胆道造影	1
（根治術後）	上部消化管内視鏡	5
先天性胆道拡張症	肝外胆管切除、肝管空 腸吻合術、肝生検	2
（術後、肝内胆管結石）	ダブルバルーン内視鏡 下結石破碎術	1
イレウス、胆汁性腹膜炎	試験開腹術、胆嚢摘出 術、総胆管ドレナージ	1
外傷性脾損傷	ERCP、乳頭切開術	1
	上 部 消 化 管 内 視 鏡 (EUS)	1
外傷性脾損傷、仮性動脈瘤	動脈塞栓術（TAE）	1
臍部洗腸路吻合部狭窄	狭窄部拡張術	1
腹壁破裂	サイロ造設術	1
	腹壁閉鎖術	1
臍帯ヘルニア	サイロ造設術	2
	根治術	2
腹壁瘢痕ヘルニア	根治術（メッシュ使用）	1
臍ヘルニア	根治術	20
臍部腫瘍	切除術	2
	臍形成術	1
外臬径ヘルニア・陰嚢 水腫	根治術	105
停留精巣	精巣固定術	25
会陰裂傷	会陰形成術	1
縦隔腫瘍	胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出 術	2
	胸腔鏡下生検術	2
胆嚢癌	開腹胆嚢摘出術	1
後腹膜腫瘍	腫瘍生検術	1
神経芽腫	腫瘍摘出術	1
後腹膜胚細胞腫瘍	腫瘍摘出術	1
褐色細胞腫	腫瘍摘出術	1
卵巣奇形腫	腫瘍切除術	1
卵巣腫瘍	腫瘍切除術	1
卵巣嚢腫	開窓術	1
良性皮下腫瘍	腫瘍切除術	11
皮膚瘻（臬径）	瘻孔切除術	1
リンパ管奇形	OK-432局注硬化療法	4
	切除術	1
消化管異物（ボタン電池）	内視鏡下異物摘出術	2
	透視下マグネットカ テーテル摘出術	5
ネフローゼ症候群	ブラッドアクセスカ テーテル留置	1
	同抜去	1
CVカテーテル（ポート） 挿入		7
〃 抜去		4
小児泌尿器科と合同手術	回腸利用腹壁導尿路造 設術	1
	回腸切除、新膀胱造設 術（回腸利用）	1

S 状結腸利用膀胱拡大、虫垂利用臍部導尿路造設術	1
回腸膀胱拡大術	1
臍部洗腸路造設術	1
合計	431

3-2) 手術術式別件数・術後合併症件数

総手術症例数	431
合併症件数	3
再手術症例数	1

3-3) 新生児外科症例

症例	性別	病名	新生児期の治療
1	女	食道閉鎖症	食道食道吻合術
2	女	食道閉鎖症	気管切開術、胃瘻造設術、腹部食道 banding
3	女	空腸閉鎖	小腸閉鎖症根治術
4	男	腹壁破裂	サイロ造設術、腹壁閉鎖術
5	女	回腸穿孔	ストマ造設術
6	女	臍帯ヘルニア、鎖肛	臍帯ヘルニア根治術、ストマ造設術
7	女	卵巣嚢腫	卵巣嚢腫開窓術
8	男	腸回転異常症	ラッド手術
9	男	腹腔内嚢胞	経過観察
10	女	会陰溝	経過観察
11	女	総排泄腔症	ストマ造設術
12	男	直腸肛門奇形	ストマ造設術
13	女	十二指腸閉鎖症	ダイヤモンド吻合
14	女	腹腔内嚢胞	経過観察
15	男	胎児腸管拡張	経過観察
16	女	卵巣嚢腫	経過観察
17	男	肛門位置異常	経過観察
18	女	胎児腸管拡張	経過観察
19	男	前縦隔リンパ管奇形	経過観察
20	男	直腸肛門奇形	ストマ造設術
21	男	小腸閉鎖症	小腸閉鎖症根治術
22	女	卵巣嚢腫	経過観察
23	女	側腹部リンパ管奇形	経過観察
24	男	小腸閉鎖症	小腸閉鎖症根治術
25	女	臍帯ヘルニア	サイロ造設術、臍帯ヘルニア根治術
26	男	肥厚性幽門狭窄症、直腸肛門奇形	ラムステッド手術、肛門形成術
27	女	小腸閉鎖症	小腸閉鎖症根治術
28	女	頸部リンパ管奇形	経過観察
29	男	左横隔膜ヘルニア	死亡（左心機能不全）
30	女	会陰溝	経過観察
31	男	気管狭窄症疑い	経過観察
32	男	腸回転異常症	ラッド手術

4) 化学療法症例：すべて小児科との併診

5) 放射線療法症例：すべて小児科との併診

6) 悪性腫瘍：手術症例を参照

7) 手術死亡症例：0 例

8) 死亡症例：0

回避しうる再入院：0

術後創感染：3

術後続発症：2（消化管穿孔）

褥瘡発生率：0

9) 主な処置、検査：上部、下部消化管造影検査（毎週木曜日午後）
超音波検査（小児画像診断部に依頼し必要時適宜）

10) カンファランス

入院症例検討：毎日朝・夕

小児放射線カンファレンス：（毎週月曜午後）

周産期カンファレンス：（毎週月曜午後）

腫瘍カンファレンス（Tumor board）：（毎月第3月曜日＋必要時適宜：小児科、小児画像診断部、小児外科系関係各科）

二分脊椎カンファレンス：（月1回；小児脳神経外科、小児泌尿器科、小児整形外科、看護部、PT）

栃木県小児外科症例検討会（年2回）

関東小児外科症例検討会（年2回）

11) キャンサーボード

参加診療科：小児外科、小児科、小児画像診断部、その他随時必要な小児外科系各科

実績：1年間に12回＋α

4. 2019年の目標・事業計画等

1) 小児外科スタッフのさらなる拡充

スタッフの体制の維持とシニアレジデント、大学院生の充実をはかる。新専門医制度開始に応じたレジデントローテートを随時受け入れ、外科系全体の臨床充実に貢献する。

2) 学生教育

2年生、5年生、6年生への系統講義

5年生の必修BSLを0.5週から1週間に拡大、選択BSL

小児外科セミナーを随時開講

3) 臨床面での発展

栃木県内はもとより関東全域、東北地方の医療機関からも積極的に適応患者を受け入れ、医療圏のさらなる拡大をめざす。高度技能を要求される小児外科疾患の治療に対応すべく、更なる医療水準の向上に努める。

手術件数の増加を目指すとともに、小児外科に特化した手術内容の質の向上、充実をはかる。

4) 研究面での発展

臨床に即した問題点の解決をめざして、新たなリサーチプロジェクトを検討中である。難治性新生児疾患である気管狭窄症、A型食道閉鎖症に対する基礎研究のさらなる発展を進める。また、小児病理学の新たな研究開発を検討する。